

学生支援機構がシンポジウム 大学等での学生支援の取組状況調査

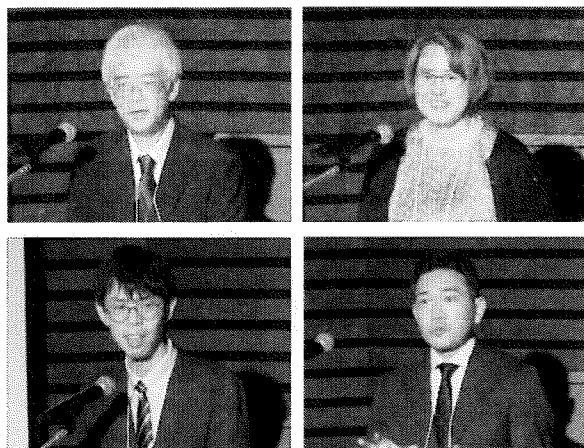
日本学生支援機構は、「大学等における学生支援の取組状況に関する調査シンポジウム」をこのほど東京国際交流館プラザ平成で開催した。

同シンポジウムは「空間」と「場」から学生支援を捉え直す―日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査」の分析から―をテーマに設定。機構が実施する同調査協力者会議の研究者4名が分析報告とパネルディスカッションを通じて、各大学等における学生支援の取組に新たな知見を提供した。

吉野利雄機構理事(当時)の開会挨拶に続いて、早稲田大学文学学術院教授の沖清豪氏がシンポジウムの趣旨を説明。また、名古屋大学高等教育研究センター准教授の安部有紀子氏から「ピア・サポート・課外活動から見える大学コミュニティ形成の可能性」、香川大学教育推進統合拠点大学教育基盤セン



ター准教授の蝶慎一氏から「空間」と「場」が交差する生活支援《学生意》と学生対応の状況から考える、福岡大学教育開発支援機構教授の橋場論



モデレーター、パネリスト。写真左上から時計回りに早稲田大の沖教授、名古屋大の安部准教授、福岡大の橋場教授、香川大の蝶准教授

氏から「岐路に立つ大学と学生支援組織―コロナ禍の経験はどのように受け止められたのか?」について、それぞれ分析報告が行われた。

パネルディスカッションでは沖氏がモデレーターを務め、分析報告を行った3名のパネリストが参加者からの質問に回答するなど、日頃の取組を盛り込んだ活発な議論が行われた。

終了後のアンケートでは、「コロナ禍前後の学生支援の変化について学ぶことができた」「日本国内ではなく、海外の状況についても話があり、参考になった」「分析報告はもちろんのこと、パネルディスカッションでは具体例もお伺いでき、とても勉強になった」といった感想が寄せられた。

シンポジウムは期間限定のオンデマンド配信で視聴可能。詳しくは日本学生支援機構の同シンポジウムホームページを参照。